

IBAだより

第14号

《茨城県吹奏楽指導者協会》

令和元年9月25日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原征剛

事務局 水戸市緑町1-10-26 島田博正

ごあいさつ

茨城県吹奏楽指導者協会 会長 梶原 征剛

私たち「茨城県吹奏楽指導者協会」(IBA)の最も大きなイベントである「ソロコンテストいばらき」は発足以来、「公益財団法人 げんでん ふれあい茨城財団」と共催事業で開催して来て、今年で22年目を迎えます。この間、一度も休むことなく続けて来られましたのは、当財団のご支援・ご協力の賜であり、心より感謝を申し上げる次第であります。

そして、このコンテストも長い年月を経て、今では、参加者も700名近くになり、その中から、県の代表として関東甲信越大会、さらに、全日本大会へと進んだ人たちが、例年、優秀な成績を収めております。特に、今年の特筆すべきことは、「ソロコンテスト」全日本大会・高校生部門で大峽航太君(水戸一高)が第1位となり、文部科学大臣賞を獲得するという快挙を成し遂げました。さらに、同コンテストの関東甲信越大会・高校生の部で埜中七望さん(鹿島高)が三浦徹賞、同じく、藤枝麻里花さん(水戸一高)が飯島和久賞をそれぞれ受賞いたしました。まさに、このことは、茨城県の管・打楽器のレベルが全国でもトップクラスであることを証明しているものと思っております。

私はこのコンテストの審査員を長くやってまいりましたが、これまで、審査に当たった感想を、「IBAだより」に掲載してきましたが、今回は、ソロ(独奏者)とピアノ(奏者)の関係について、日頃、思っていることを少し申し上げたいと思います。

突然、話は変わりますが、西洋音楽の変遷の中で、古典派及び初期ロマン派の器楽曲や声楽曲などには、旋律(独奏楽器・独唱)＝主、伴奏(ピアノ)＝従、の形がはっきり区別されている作品が多く見られます。それが影響しているのでしょうか、現在でも、一般的に《ピアノ伴奏》と言う言葉が広く使われているのが現状です。そのために、ピアノ＝伴奏と思いついてしまっているのか、音楽をつくる上で最も大切なピアノと合わせることを軽んじているような気がしてなりません。従って、当然、合わせる回数も少なくなり、曲が完成しないまま1次審査や県大会を迎えることとなり、その結果、何でもない所でのイージーミスが出てしまう場面を、これまで、私は何度も見てきました。このような小さなミスは事前の練習(合わせ)で未然に防げるだけに残念でなりません。

皆さん、ソロとピアノは対等です。そして、一心同体です。どうぞ、これからも、ピアノと合わせることを出来る限り優先させて、ピアノ奏者と共に試行錯誤を繰り返しながら、音楽を完成させてこそ、聴いている人に感動を与える音楽が生まれるのです。

そして、それを可能にしてくれるのが、唯一のパートナーであるピアノ奏者であることを決して忘れないでください。

(茨城大学 名誉教授)

「音楽を楽しむ心を持ち続けて」

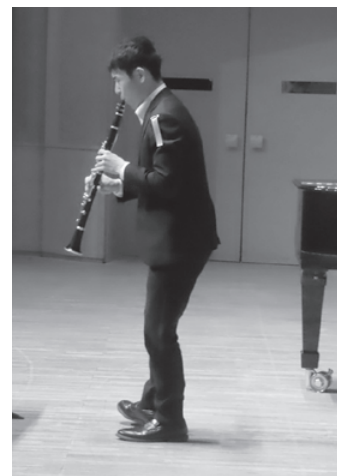
茨城県立水戸第一高等学校 大峽 航太

この度はこのような素晴らしい賞を頂いたことを、心から嬉しく思います。また、多くの皆様に応援していただき感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今回演奏した「ファンタジー」は無伴奏の現代曲で、自分が今まで演奏したことのないとても難しい曲でした。初めてこの曲を聴いたときに衝撃を受け、「ぜひこの難解な曲を演奏したい」と思い、挑戦することに決めました。この曲は無調で拍子が無く、重音やフラッター奏法などの特殊奏法が多く使用されている曲のため、譜読みの段階で多くの時間を費やしました。その時に、一つ一つのフレーズを丁寧に練習することを心がけました。私が、この曲を練習するにあたって最も時間を割いたのが、この曲全体のストーリー(流れ)をどう表現するかへの練習です。先ほども書きましたが、拍子が無いため、最初はどこまでが一つのフレーズなのかが分かりませんでした。また、それが何を表現しようとしているのかもイメージ出来ず、手探り状態でした。初めのうちは、楽譜を追うので精一杯という状況でしたが、練習を重ねていくうちに、自分の中で曲のストーリー(流れ)が完成し、そこに向かってひたすら練習しました。本番では、「自分のできる最高の演奏をしよう。また、楽しんで演奏すると同時に、聴いている方にも楽しんでもらおう。」と思いながら演奏することができました。演奏が終わった瞬間、楽しい時間が終わってしまったというさびしさと、「この素晴らしいホールで吹ききった！」という喜びを感じました。

今回「無伴奏の現代曲」という新しいことに挑戦したことで楽器の技術が向上し、自分自身の音楽の幅を広げることができました。これからも、感謝の気持ちと、音楽を楽しむ心を持ち続けて、多くの曲に挑戦していきます。

支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



全日本大会 3月26日(火) 於 上野学園大学

【平成30年度ソロコンテスト全日本大会高校生部門第1位 文部科学大臣賞受賞者】

「審査員賞を受賞して」

茨城県立鹿島高等学校 埜中 七望

今回、茨城県代表として関東甲信越大会で素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。

私は、ソロコンテストに中学2年生、高校1年生の時も出場させていただき、2回とも金賞をいただくことができました。しかし、茨城県の代表になることはできず、悔しい思いをしました。その悔しさから、音楽をもっと勉強し、茨城県の代表として関東甲信越大会に出場したいと強く思いました。

今回演奏した「スイスの羊飼い」では、印象的な序奏で聴く人を引きつけられる技術や、ゆっくりとした主題を魅力的に歌い上げる音楽性、華やかな曲想の速いパッセージの音を一つ一つ正確に演奏できる技術を身に付けるために、日々努力してきました。また、曲だけではなく、基礎練習やエチュードの練習量を増やし、フルートの根本的な技術面からの向上を目指してきました。

本番では、自分の演奏を聴いてくださる方に楽しんでいただけるように、自分自身も4分間楽しんで演奏しました。その結果、「審査員三浦徹賞」を受賞することができ、そこで、今までの努力を評価していただけたことが何よりも嬉しかったです。

指導していただいた先生方、私が吹きやすいように何度も合わせをしてくださったピアノの先生、そして沢山応援してくれた家族や友人への感謝の気持ちでいっぱいです。

ソロコンテストに出場して音楽を勉強し、演奏することの楽しさを改めて実感することができました。

そして、これからも音楽を勉強し続けて、いつか自分の演奏を通して音楽の楽しさや魅力を伝えていける人になりたいです。

【平成30年度ソロコンテスト関東甲信越大会高校生の部 審査員三浦徹賞受賞者】

「ソロコンテストで得たもの」

茨城県立水戸第一高等学校 藤枝 麻里花

一昨年、私は、このソロコンテストに挑戦し、関東甲信越大会への出場権を頂きましたが、その本番では思うような演奏ができず、後悔が残りました。その時、高校生でもう一度挑戦しようかと心に決めました。

今回の曲は「協奏曲」という今までに経験したことのない部類で、練習では多くの壁にぶつかりました。連続するタンギングをいかに自然に滑らかに演奏できるか、繰り返される同じ形のメロディーや、転調する部分にどのような変化をつけるか。多くの人に親しまれる有名な曲である分、その魅力をどう引き出すことができるかが最大の難点でした。

この曲の練習を通して、速いパッセージを吹く技術、欠けている表現力や、精神力を向上させることができました。

ご指導頂いた先生方、見守ってくれた家族、様々な方達の支えがあって、このような賞をいただくことができ、心から感謝しています。

舞台上でソロを演奏するという貴重な体験を通して音楽に向き合う姿勢を改めることができました。この機会を得た課題を見直し、音楽ができる喜びを胸に、今後も練習に励んでいきたいと思っています。

【平成30年度ソロコンテスト関東甲信越大会高校生の部 審査員飯島和久賞受賞者】

JBA 関東甲信越支部「第17回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA 茨城県部会事務局長 古井 忍

平成31年2月24日(日)国立音楽大学オーケストラスタジオにおいて、JBA 関東甲信越支部「第17回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」が行われました。茨城からは、「第21回ソロコンテストいばらき」で代表になった中学生5名、高校生5名が出場しました。この大会は、東京、神奈川、千葉、埼玉、栃木、茨城、山梨、新潟の代表64名が参加し、全国でも演奏のレベルが高い大会です。今大会も、それぞれの楽器で高い音楽性と演奏技術を披露し、白熱した演奏会となりました。

茨城県の出場者では、県立水戸第一高等学校1年の大峽航太さん(クラリネット)が、高い音楽性と見事な奏法で第2位となり全日本ソロコンテストへの出場を果たしました。全日本での素晴らしい活躍については別項で紹介しているとおりです。また、県立鹿島高等学校2年の埜中七望さん(フルート)が三浦徹審査員賞を、県立水戸第一高等学校1年の藤枝麻里花さん(フルート)が飯島和久審査員賞を受賞しました。中学生の部では残念ながら入賞者はいませんでした。出場された方全員が日頃の練習の成果を発揮して素晴らしい演奏を披露しました。

さらに、演奏終了後に行われた特別演奏では、「第21回ソロコンテストいばらき」でげんでん音楽大賞を受賞した東海村立村松小学校6年生の小泉香奈さん(フルート)がクンマー作曲「庭の千草変奏曲」を表情豊かに演奏して、会場から大きな拍手をいただきました。

関東甲信越支部ソロコンテストで演奏された11名の方々は、茨城県の代表として音楽的にも技術的にもレベルの高い演奏を披露してくださいました。素晴らしい演奏をありがとうございました。

<< 事務局より >>

I B A 事務局長 島田 博正

今年度のソロコンテストいばらき日程

- ソロコンテスト一次審査 R2.1/4(土)・5(日), 11(土)・12(日) ひたちなか市文化会館他(予定)
- ソロコンテスト県大会 R2.2/8(土)・9(日) 筑西市明野公民館(決定)

昨年度は、県内5地区から631名の一次審査参加がありました。県大会では、小学生12名、中学生69名、高校生59名がすばらしい演奏をホールいっぱい響かせ、関東甲信越大会に中学生5名・高校生5名が推薦されました。関東甲信越大会では、大峽航太(CL)さんが、全日本の大会に進んで第1位となり、文部科学大臣賞を獲得しました。今年度も多くの皆さんが参加され、すばらしい演奏を聴かせて下さることを期待しています。

CDの処理について

昨年度も各学校から送られたCDの取り扱いに間違いがいくつかありました。地区事務局担当者へ送る際、一次審査参加要項の4を確認するようお願いいたします。また、書類等の提出については、参加要項を確認していただき間違いの無いようご協力をお願いいたします。

お知らせ

今年度から、関東甲信越支部に新潟県が正式に加入したことによって、関東甲信越大会への出場枠が各県5名から4名に変更になりました。

平成30年度 第21回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況

	一次審査	県大会
小学生	県央	9
	県東	2
	県南	
	県西	1
	県北	
	計	23

	一次審査	県大会
中学生	県央	17
	県東	10
	県南	11
	県西	21
	県北	10
	計	440

	一次審査	県大会
高校生	県央	20
	県東	6
	県南	15
	県西	12
	県北	6
	計	168

「げんでん財団」は
ふれあいとゆとりある
地域づくりに貢献します

(公財) げんでん ふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 東海事業本部 地域共生部内(東海村白方1-1) TEL. 029-287-1251
茨城事務所内(水戸市笠原町978-25) TEL. 029-301-1511